

令和4年度 第3回 砂川市小中一貫教育推進委員会 会議記録

○日 時 令和5年3月22日(水) 15:30～16:50 (所要時間＝1時間20分)

○会 場 砂川市役所 2階 大会議室

○出席者

【委 員】 14人 校長6人、教頭7人、主幹教諭1人

【教育委員会】 3人 教育次長、指導参事、技監

【事務局】 4人 学校再編課長、学校再編課長補佐、学校再編係長、学校再編係主事

○傍聴者 0人

○議事記録

1. 開 会

2. 挨拶 小中一貫教育推進委員会会長

3. 報告事項

- ・先進地視察について
- ・令和4年度特別部会決定事項及び経過報告について

【議事の内容(要旨)】

事務局

- ・先進地視察について

報告事項について、説明させていただきます。資料については黄色の付箋が貼られている別冊資料としてまとめております。別冊の1、2は小中一貫教育に関わる視察資料、別冊3から6までは義務教育学校建設に関わる視察資料となっております。本日の報告につきましては小中一貫教育に関わる別冊1と2について報告させていただき、別冊3から6までは参考資料として、後ほどご覧ください。

それでは別冊1につきまして、昨年11月10日、兵庫県姫路市を視察してきました。コロナ禍ということもあり義務教育学校の視察は出来ませんでしたが、姫路市教育委員会の方から小中一貫教育の取り組みなどについて説明がありました。小中一貫教育導入の経過について、子どもの心身の発育の加速化と現行の学校制度がうまくかみ合っていないことや、同じ義務教育期間の中で小学校、中学校の教える側の意識がうまくつながっていないのではないかと、などの課題により小中一貫教育を導入しており、モデル実践を踏まえて平成23年に市内全ての中学校ブロックで導入されています。現在の小中一貫教育の類型としては、義務教育学校が3校で、施設一体型、施設隣接型、施設分離型がそれぞれ1校ずつ、それ以外については、中

学校ブロックを 32 に分け進められています。小中一貫教育の主な取り組みとしては、姫路市が進める小中一貫教育の定義を 3 つ定義づけており、小学校と中学校を意図的、計画的、組織的につないでいくこととしております。定義に基づく主な取り組みの 1 つ目としては、中学校ブロックごとに「小中一貫教育推進計画」を作成し、目指す子ども像を設定するとともに、具体的な取り組みや検証方法を計画し毎年評価しています。

2 つ目としては、指導区分を 4-3-2 制として、学習の系統性や連続性を保証する取り組みが進められており、適時性を踏まえた一貫性、連続性のある学習が構築されることを目的として、小中一貫教育標準カリキュラムが作成されています。また、資質、能力を視点に子どもの学びの適時性と連続性を整理したものとして、小中一貫教育つながりカリキュラムが作成されています。

3 つ目としては、各ブロックの代表が参集し、年 3 回の小中一貫教育担当者会議の開催、全体研修、実践発表など情報交換が図られています。

4 つ目としては、小中一貫教育を推進するうえで、合同研修や研究会参加などの予算支援が行われています。次に裏面になりますが、姫路市の義務教育学校開校の考え方については、中学校ブロックごとに目標を設定して実践されていますが、小学校、中学校という組織の二重構造、各学校の目標と中学校ブロックの目標のダブルスタンダードや会議の重複などの教職員の負担感があったことから、学校組織を一元化した義務教育学校を開校することとなりました。義務教育学校の設置は、全てのブロックで設置するものではなく、設置方針を定めて公募し、3 校の義務教育学校が開校しており、校長と市教委による意見交換会を毎年行い、課題等の共有が図られているとのこと。以下、各学校の特徴について記載しておりますので、お読み取り願います。また、参考資料として、視察でいただいた資料を添付しておりますので、ご高覧願います。

続いて別冊 2 について、昨年 11 月 11 日、大阪府堺市のさつき野学園に視察してきました。堺市教育委員会職員も学校に来ていただき、堺市の小中一貫教育の取り組み等についての説明を受けました。堺市の小中一貫教育の導入の経過としましては、全国学力学習状況調査の結果が全国平均を下回っていることや、自尊感情、規範意識の低下等が課題となっていたことから、課題解決のため小中一貫教育を導入しており、平成 23 年 4 月に策定した小中一貫教育の推進ガイドラインに基づき推進されています。小中一貫教育の形態については、一つの中学校と複数の小学校で構成される小中一貫教育のほか、一体型の小中一貫校も 2 校あり、市内 43 の中学校区に分かれています。小中一貫教育の主な取り組みとしては、中学校教員による小学校への乗り入れ授業や小学校教員の中学校訪問、小学校 5、6 年生での一部教科担任制の導入、中学校区内での合同事業や中学の授業体験、部活動体験の実施、中学校区で学力向上プランの作成や義務教育 9 年間を見通したカリキュラムの編成、小中一貫した指導体制として、「家庭学習ノート」の作成・配布、中学校区ごとに推進リーダーを配置し、管理職、生徒指導等の担当者による会議体を設置し、定期的な合同研修、分科会の開催などの取り組みがされています。小中一貫教育の成果としては、児童生徒の自尊感情や規範意識の改善が見られるとともに、授業改善や学力向上が図られています。課題としましては、一体型の小中一貫校と分離型では、同じ取り組みができないものもありますが、そのような状態でも可能な限り取

り入れることが必要であるとのことでした。また、小中一貫教育の導入を進めていくうえでの体制づくりが主体でありましたが、グランドデザインを核としたカリキュラムレベルでの充実を図っていくことが必要であるとのことでした。以下、裏面に、さつき野学園の特徴について記載していますので、お読み取り願います。また、参考資料として、視察でいただいた資料を添付しておりますので、ご高覧願います。報告につきましては以上となります。

会長 視察についてご質問やご確認されたい方はいらっしゃいますか。また何か確認したいことがあればその際お願いします。

続いて報告事項、令和4年度特別部会決定事項及び経過報告について各部会長から説明をお願いしたいと思います。まず初めに小学校教育課程部会長をお願いします。

委員 ・令和4年度特別部会決定事項及び、経過報告について

小学校教育課程部会は、今年3回の会議があり、その間各学校に協力していただき出来るだけ部会だけでなく、現場からの意見も取り入れてきました。本部会は今年度から発足したため、着地点を定めるというよりも、資料のとおり大まかな目標を定めて進めてきており、細かな点は各学校の必要に応じて対応してきました。来年度については原案的なものは出来上がっているの、それをもとに各学校で進めていくこととしており、今後の部会についての内容は、保護者にも説明していき、決まった内容をアナウンスしていく予定です。資料に書いてあること以外でさらに部会案を統一したほうが良いという面も出てくると思います。どこまで統一するかについては、学校規模の問題もあり実施できるところとそうでないところがあり、それを踏まえ、進めていかなければなりません、部会を進めていく上では、部会の内容を明確にし、先生方と共有した時点で疑問点が出ないようにするため、各学校から意見を共有していただき、最後にまとめ上げることが必要だと思えます。

会長 今年度から始めるということで、スタートを切る際の難しさというのはあったと思います。小学校はどちらかというと主体性の文化ですので「それぞれの持ち味を…」ということをする職員も多かったと思います。実際に全ての小学校から中学校に入学してくる際にそれぞれ決まり等にばらつきがあると、中学校職員の指導のしづらさというのはスタート地点で生じることと思います。足並みを全て揃えることは難しいですが、一定ライン揃えていくことは必要であって、入学した段階での指導のしやすさに直結すると話を聞いて思いました。実際にやってみて、不具合が生じた部分は改善するサイクルで職員の意識がどう変わっていくのか、常に確認しながら取り組むことが大事だと思います。

今説明がありましたが何か確認したいことや質問があればお願いします。それでは先の協議に進みたいと思います。それでは小中連事業部会長をお願いします。

委員 小中連事業部会は7回の会議を行ってきました。主な内容の1つが小学校5校の交流会の実施、もう1つが次年度以降の事業の計画として、合同遠足について協議

してきました。今年度の5校交流会については10月と2月に小学校6年生で2回実施しましたが、いずれの交流会についても初めに概要の提案があり、その次の会議で案を精査し、実施後に反省をするという丁寧な進め方をしたので比較的スムーズに進めることができました。合同遠足については、次年度は5年生と6年生それぞれの学年で実施することが決定しました。5ページの3番にあるように、見通しを立てることができましたが、令和8年度に義務教育学校が開校することを踏まえ、令和7年度の交流会はどうあるべきか、またどこまでが小小連携、小中連携なのかを明確にするかということを考える必要があります。

会長

今年度の実績、それから次年度以降の見通しということで5ページにも記載がありますが、実際に交流を進めていく中で「はじめまして」ということが中学校に入学してからはないというところが連携事業の一つの良いところだと感じています。これは中学校の統合に対しても同じことが言えて、どうしても「はじめまして」というときには物理的な距離感もありますが、一緒に、一緒に時間を、一緒に空間で過ごすことで、物理的な距離感や心理的な距離感が少しずつ近まってくるような子どもたちの様子を見られ、5校の児童たちが各々の学校のエリアの中でしか生活していなかったことが、様々な学校の友達とつながることで今まで知らなかった世界が広まり、中学校入学に関わって、あるいは義務教育学校開校に関わって一緒になる喜びを感じることを最終的に目指す場所だと感じます。今、令和7年度の小小交流の連携が非常に難しく重要な問題ですが、これからどのように進めていくのか、また、目的意識を明確にし、今年度の計画の改善に努めるのが望ましいと感じました。

皆さん方から何か確認しておきたい事項や質問などありますか。では続きまして、小中連携事業部会長お願いします。

委員

小中連携事業部会は今年度3回部会を開いており、小中の接続の段差を少しでも小さくし、子どもたちがスムーズに接続できるように2つの取り組みを実施しております。

1つ目が「家庭学習強化週間」、来年度からは「家庭学習チャレンジ週間」と名前を変更して取り組みを行っております。今年度は後期から11月と2月に行い、2週間の取り組みの中で保護者へのアンケートも行っております。子どもたちが意欲的に取り組んでいたか、目安の学習時間に届いていたか、家庭から励ましをしていただけたかの3点です。令和5年度の家庭学習強化週間については6ページにあります。枠内の1～6について、5番の家庭学習の定義は様々な議論を交わしましたが、まず目安の時間は②の通り「学年×10分+10分」としまして、中学校からは今後の義務教育学校の学年より7年生8年生9年生というカウントで80分90分100分を目安とします。また学習内容についても机に向かって取り組むことを基準とし、2回目の保護者のアンケートからは「学童での勉強時間は入れても良いのか」という声もありましたが、それらも含めて学習時間にカウントすることで決定しました。最後にその他として家庭学習の取りまかせ方として宿題のことが保護者のアンケートからも出ていました。宿題を出して課題に取り組ませる先生、宿題を出さずに自分で課題を考えさせる先生、色々あるとは思いますが、来年度以降学校とし

て、発達段階ということ踏まえまして、方向性を示し取り組みにつなげていただければと思います。

2つ目の取り組みは、中学校教員の乗り入れ授業についてです。乗り入れ授業については11月から2月まで合計で9本の授業を行っており、時期的に難しいところではありましたが、それまでに要望シートを取りまとめ、できるだけ要望に沿う形で行いました。授業後には6年生、あるいは5年生から感想を取り、大方の声として、楽しかった、中学校での授業が楽しみになった、逆に中学校までにこんなことを勉強しておかなければならないと思いました、という前向きな感想が多かったです。来年度以降は実施時期、回数など、精査をしながら、義務教育学校開校に向けて、対応したいと思います。

会長

小中学校の接続部分として、中学校での家庭学習に取り組む時間が短いのは、毎年の学力状況調査でも課題としているところですが、小学校の段階から家庭学習がある程度習慣として身につけていると、中学校が助かると感じます。そのつながりの部分については家庭学習もですが、中学校に対する不安が、中1ギャップとなり不登校が増えるため、期待を持たせることや、不安に思ったことを小学校の段階で解消し、こんな取り組みを頑張ろう、という動機づけや、そういったことに直結する取り組みが望ましいと思います。実際に乗り入れ等は中学校の教員が率先してやらなければならないと感じていて、中学校としても自分たちばかりという思いを持ちがちですが、そういったことから始め、逆に小学校の教員が中学校の生徒にどんなサポートができるのかを考えていくきっかけや中学校側の要望を伝えるためにまず知ることから始め、小中学校の連携授業をこれから進めるべきだと感じます。

委員

家庭学習チャレンジ週間ですが、今年度をベースにして次年度のものを打ち出されたとのことですが、資料にある記録シート、市内共通の様式と書かれています。各学校の取り組んできたものを残す、または残さないについて、各学校の思いもあると思うので含みを持って検討して欲しいと思っております。例えば、様式は市内共通のものでも発信の仕方をそれぞれの学校に委ねるのか、全体で共通のものを各学校が伝えるのか等ございますのでよろしくお願い致します。

会長

部会長から何かありますか。

委員

今年度の最初の部会の中で確認をして進めていきたいと思っております。

会長

それでは次年度が始まって、細かな点を確認しながら進めていくということで確認したいと思っております。これは個人的な話ですが、あくまでも全市的な取り組みで文書を出すのであれば、基本的にこの会の名前で出すべきだと思っており、今年度発足したばかりで細かな取り決めまでは、一切ないですが、次年度そういったところも決めていければ良いかなと思います。他に何か質問、確認したいことはありますか。

委員

私の反省ですが、乗り入れ授業に関して年度末に立て続けに行ってしまい、7ペ

ージの中学校教員の乗り入れ授業のねらいから考えると、小学校教員が指導方法を学ぶとか、中学校の教員が小学校の様子を見るという点で考えるのならば、年度末に立て続けに行く必要はないと反省しているところです。

会長 この件に関して昨年度の途中からスタートしているのですが、どうしても年度末に固まりがちだったのは仕方がないと感じております。次年度については中学校統合後のスタートなので、4～6月は正直、無理そうだと思いますが、計画的に、年度末に限らず、部会の中で確認して進めていただけたら良いと思います。

他に質問等ある方いらっしゃいますか。

委員 先ほどの質問を掘り返す形にはなってしまうのですが、シートを作る際に先生方より、働き方の部分で負担感を感じ、その部分を解消するために話し合った結果、数字をチェックするだけの様式になりました。基本的に一週間生徒に自分で書いてもらって最終的に一週間の振り返りとアドバイスを書いてもらうものとなっています。先ほど言っていた内容について、私達はそもそも学校から文書を出すべきではないかと思っていて、先ほど会長が文書も統一して出すべきではないのかということをお仰っていたのですが、この取り組みにおいては、基本的に同じことをやってみましょうという考えなので、逆に言えば学校からそういった文言を出すのは、どういったことを想定しているかなということが、私には疑問点として感じられたので、少しお聞かせ願いたいと思います。

委員 学校規模が違うので、まずそこが一つ考えているところです。もちろん物事を進めていくにあたり、先生方の負担感とか、そういったことも考えなければならないですし、例えばこの取り組みをするということであれば、統一したもので良いと思います。しかしある程度記録表を生徒に任せるならば各学校名、校長名で文書を出す、そういったことも含めて発言をしたつもりです。今のお話で統一したもので進めるということを確認したので、そのことについてはもうよろしいかと思いますが、学習の習慣づけという部分で焦点を当てた際にそれ以外の項目を設けるのはあまりよくないと考えます。例えば、起きた時間や寝た時間というのは、生活習慣シートの名残で、わざわざ併用しなくてもいいものだと考えたため、ぜひ検討していただき最終的にどうするか見出して頂ければ良いと思います。

委員 検討する時間は各学校に既に設けていただきましたし、内容については職員会議を通していただくということも伝えておりますので、決定した内容についてはご存じかと思いますが、計画では生活リズムチェックシートも兼ねています。生活リズムシートを各学校で行っているかという点ではありますが、兼用することで少し簡略化できる部分もあると考えます。よって起きた時間、寝た時間の記載をしていこうという話にもなっていますし、他の学校で、今年使っていたチェックシートの中に生活リズムチェックシートを絡めた内容のものもあり、5校の形式を融合させたものを使っていこうという話は事前に部会員へ説明してあります。本来であれば部会員が学校に説明すべきことと思うので、そこがうまくいかなかったのは私たち部会長の責任だと思うので、大変申し訳ないと感じておりますが、経過がございませ

で、できればこの形で市内共通のものを使うこととし、今参加している先生方で共有していただき、令和5年度からスタート出来ると私は思っていますので、再検討とはならないと考えます。

委員 全体で共通の考えで進めていくという話が私に明確に伝わっていなかったのも、お手数をおかけしましたが、手順を経てここに至ることについては理解しています。

会長 これまで各部会からの報告があったものについては、この組織を中心とし、各学校に出してもらった意見集約や、意見反映をした後に、方向性を決めて進めていくという考えです。ただ、昨年度スタートしたので100%うまくいくのかと言えば難しいとは思いますが、こういったやり取りを重ねながらブラッシュアップできればと思いますので、次年度のスタートについては、このシートを活用して実施し、それからもう一つ確認したいのは、それぞれの学校から部会員を選出していただいているため、その部会員の方からも部会でまとまった話や、砂川市として統一して取り組もうという発信を部会員からも声かけしていく必要があると感じました。あくまでも会議で決まったのでやってください、と言っているわけではないのでそこは確認をしたいと思います。

他に何か質問確認ありますか。

委員 2点あるのですが、1つは次年度に向けての要望として、家庭学習のチャレンジ週間ですが、このシートを使い、市内で統一しながらやるということで今年度検討されてきたと思うのですが、取り組むのであれば、子どもと教師だけが焦点にならないようにするのが良いと思います。この取り組みを市内全ての学校でやるので、保護者も一緒に目標設定に関わってもらい、起きた時間、寝た時間、勉強した時間を見てもらい、関わることで、親子の会話がこのシートを通じて生まれていき、子ども、保護者、学校、の三角形の取り組みになるのではないかと思います。ですので、このシートを始める通知文書等で、この取り組みを行うねらいや目的についても明記してもらいたいと思いますし、各学校についても、保護者懇談会などでこういった取り組みを行うので是非保護者の方もお子さんの応援をよろしくお願いし、というような働きかけがあると良いと思います。次年度の小中連携事業部会でも確認して進めていただければと考えます。

もう1つが乗り入れ授業についてですが、実際に実施したところを見させていただいたのですが、中学校の授業は教科担任制がメインで、より専門性が高い授業が展開されていました。逆に小学校は学級担任制がメインで、学級担任が中心になっています。ですので、授業の文化に違いがあると思います。一つの研究テーマを立てた中で小学校の先生、今1st、2nd、3rdステージの先生方が同じ研究に取り組んでいくことになるので、授業作りというのも学年を理由に言い訳してられないので、ある程度9年間を見据えた授業改善というのをする必要があります。そういった先を見据えたときにまず小学校の授業づくりの風土、中学校の授業づくりの風土というのをお互い理解し、どんな授業を小中で作るのかといったことを検討していくことも今後の小中連携事業部会の一つの役割になると思います。今の内

容について今年度の課題や意見、方向性をイメージされているのか、一つ要望、一つ質問ということでお願いします。

会長 要望については次年度の部会の中で協議していくということで確認したいと思います。質問については、今年度の部会の中で先程の話が上っていたのかどうかという所についてお願いします。

委員 授業作りについては、来年度以降協議していきたいと思います。

会長 他どうでしょうか。

委員 小学校教育課程部会の先生から出た意見ですが、先ほどのスタンダードも9年間を一色単に合わせたものにするのかも含め、検討していく必要があると思いますし、小学校教育課程部会が決めていくのか、小中連携事業部会が決めていくのかということも、これからの課題になると思います。

会長 その他、何か意見ある方いますか。

事務局 補足で説明をさせていただきます。家庭学習チャレンジ週間に関わる様式の内容について、家庭を巻き込んだ形という要望があったと思うのですが、今年度実施した取り組みの中で、保護者の方からコメントをいただいております、その中に今回は一生懸命取り組んでいましたとか、あるいは今回は集中できていなかったとか、保護者の方も様子をしっかりと見てくれているのだろうという感想は多くありましたので、おそらく来年度以降も保護者の方が子どもを励ましていただけるのかなと思われます。ただし、保護者が無関心な場合もありますので、コメントを書いていない方もいらっしゃいましたし、そういったところは今後の課題と捉え、引き続き進める際には保護者の関わりをより一層良くしていけるように周知をしていきたいと思います。

会長 砂教研でもそういった議論ができれば良いと思います。
それでは他に小中連携について何か質問ありますか。

委員 このように多くの学校が連携して行うときに、意見の食い違いがありそうなので意見を述べさせていただくのですが、例えば家庭学習のときに学力の問題があると各学校で課題が違うかもしれない、各学校で力を入れたい場所が異なってくるかもしれない、そういう時に各学校で進捗を揃えようとしたとき、やりづらさや、最低ラインをどこにするかということが考えられてきます。そうすると学校によっては取り組みたいことが総意と違うかもしれない。そういう時には各学校でできる部分を残すとか柔軟性があつたほうが子どもたちに即した取り組みにしやすいのかなと思います。今年度各学校についてどうだったかはまだわからないですが、実際には難しい部分もあつたと思います。その後に話し合われると、例えば今回の家庭学習シートについても、行った結果どのように、どういう状態を目指していくのかそ

の部分にもつながっていくので意見として捉えていただければと思います。

会長 各学校で伸ばすのか、この先一貫というくくりの中で砂川市の学校として伸ばしていくというような意識を持ちながら進んでいけば良いのかなと思います。他にありますか。では施設建設部会長お願いします。

委員 施設建設部会は三つの部会の発足後、年明けに1回協議を行っており私はあまり具体的な報告にならないかもしれませんが不足している部分があれば、補足していただければと思います。1回目が2月の上旬にありまして、建設される校舎の現時点での図面を記述していただき、設計事務所の方も同席するという形で進めました。校舎が完成するまでの基本的なスケジュールの確認、それから教室の配置などのヒアリング事項、それについて部会員から意見や質問も含めて話し合うということで進めて参りました。その主な内容が資料にまとめられていますが、学年ユニットについての検討、普通教室のこと、学年ごとのガスや水道についての検討、特別支援学級の教室を複数の階層に分けたほうが良いのか、集めたほうが良いのかそういったところも含めて様々な意見の交流が行われました。また、教室とワークスペースの間仕切りや体育館の活用についても協議してきました。他には、図書館の在り方ですが、オープンスペースになっていたり、コンピューター教室の概念も取り付けて、今一人一台タブレット端末を持っていますのでメディアコートという新しい考え方に基づいた視聴覚機能を持たせるようなスペースについて時間が限られていたので、具体的な部分まで協議するのは難しく、今後の設計において参考にしていただければという内容で協議して参りました。そして2回目が明日の午前中にありますので、今年度最後のものなので、次年度以降に必要な見通しを持つ会になればと思います。

会長 説明の中で何か質問、確認事項ありましたら、お願いします。それではこれまで四つの部会から説明がありましたが、全体を通して何かありますか。よろしいでしょうか。

4. 協議事項

・令和5年度砂川市小中一貫教育推進計画（案）について

【議事の内容（要旨）】

会長 ・令和5年度砂川市小中一貫教育推進計画（案）について
それでは続いて日程の4、協議事項に入って参りたいと思います。令和5年度砂川市小中一貫教育推進計画案について事務局説明をお願いします。

事務局 それでは砂川市小中一貫教育推進計画案についてご説明をさせていただきます。計画案は、小中一貫教育が制度化されるに至った経過と砂川市の現状について触れながら令和4年4月に策定をしました砂川市義務教育学校基本構想を踏まえて、砂

川市として小中一貫教育を実現するために今すべきことやより発展的な小中一貫教育を行うための考え方を明らかにした砂川市小中一貫教育推進計画を策定することとしたというように中身で進んでおります。

小中一貫教育の目的についてですが、9年間を見据えて発達の段階に応じたきめ細かい指導と、小学校と中学校が連携、協力して学習面や生活面での切れ目ない支援にあたり砂川市としては主に次のことを目指し取り組みを進めたいと考えています。

1 点目が主体的、対話的で深い学びを通して生きる力を育むための資質、能力を養います。

2 点目が9年間を見通したカリキュラムの編成による学習指導の改善から、児童生徒の学力の向上に努めます。

3 点目が小学校から中学校への接続を円滑にし、環境の変化により起こる、いわゆる中1ギャップなどの状況を解消します。

4 点目として様々な課題を抱える児童生徒に対し、9年間を見据えた切れ目のない指導・支援を行う生徒指導体制を充実させます。

最後5点目として将来を見据えて砂川市を支える人づくりと共生社会をつくるための素地づくり、実現に努めて参ります。2ページから3ページにかけて砂川市が考える小中一貫教育についてまとめてあります。これまでの教育は、小、中学校間の連携はあったものの、中学校進学時の環境の変化や不安などが大きく、いわゆる中1ギャップの段差を感じる生徒たちもいました。そのため義務教育9年間で1stステージ（1年生～4年生）、2ndステージ（5年生～7年生）、3rdステージ（8年生～9年生）の3つのブロックを設ける背景は、心身の発達の時期と変化・学力形成の特質・生徒指導上の課題の3点が挙げられると考えております。3ページ以降にはこれまで説明した心身の発達の変化、学力形成の特質、生徒指導上の課題の3点が挙げられると考えております。3ページ以降には先ほどの3点の具体的な課題について示しておりますので、一度ご覧になってもらえればと思います。

続いて4ページは、義務教育9年間で3つのブロックに分け、9年間を見通した系統性、連続性のある小中一貫教育を行うことが、本市が進める小中一貫教育の考え方であり、小学校1年生から中学校3年生までの全ての児童生徒が、それぞれの段階に応じた指導を受けられる環境をつくるためには、次の3点が重要であると考えています。

1 点目が小、中学校におけるそれぞれの発達の段階に応じた目指す子ども像を小、中学校に関わる全ての人、具体的には教職員、保護者、地域の方々が共有するとともに、小、中学校の9年間でひとまとまりと捉えた同じ教育目標（義務教育修了段階で身に付けさせたい力）を設定すること。

2 点目として校種間の円滑な接続と連携が重視されていることから、小、中学校の学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、小学校1年生から中学校3年生まで連続的に成長する子どもの姿を見通しながら、9年間一貫した系統的な教育課程を編成すること。

3 点目として学校生活の中で指導にあたる教職員が、義務教育9年間及びその前後にある幼児教育、高等学校教育における教育活動も理解し、教育実践に取り組むことが必要だと考えています。教育理念と目指す子ども像、5ページにあります小

中一貫教育の基本的な教育方針、6ページにあります小中一貫教育の実践内容については昨年4月に策定しました義務教育学校基本構想で示している内容となっていますので、その部分の説明については省略させていただきたいと思います。

続いて9ページは、小中一貫教育の推進に関わる年次計画についてであり、令和8年度の義務教育学校の開校に向け、令和5年度～令和7年度の3か年において、全ての学校において共通して取り組む実践内容を整理するとともに、モデル校を指定した小中一貫教育の実践を通して、令和8年度の義務教育学校のスムーズな開校につなげていきます。

推進内容の課題については大きく6つのカテゴリーに整頓し、基礎学力の定着と学習習慣の向上、評価分析においては、家庭学習の習慣の定着を目指す取り組みとして家庭学習チャレンジ週間の取り組み、前期課程（後半）の一部教科担任制を見据えた指導体制の構築、小中連携した英語学習、特に小学校1、2年生における外国語活動の実施について検討を進めることとしております。

2つ目のGIGA スクール構想の推進では、一人一台端末を活用した自学自習を充実するための効果的な学務などについて検討を進めたことを報告します。

続いて3つ目の不登校等の生徒指導上の諸課題の減少と未然防止については、小中一貫した教育相談体制整備による中1ギャップなどを解消することに児童生徒一人一人のスクリーニングにより不登校児童生徒の減少の取り組みを進めることとしております。

次に4点目は、幼保、小中の連携では幼、保、小のつながりを意識した特別な配慮を必要とする子どもの円滑な引継ぎや、教員を対象にした小中合同研修会の実施を進めて参ります。小中合同研修会については、令和8年に、小学校の教員と中学校の教員が同じ職員室に入ることから、小中学校の教員がうまく交流していかないとここで学ぶ子どもたちにも影響があると思いますので、この3か年の間に小学校の教員と中学校の教員が合同で指導していくことが大事なのではないかと考えます。

次に5点目は、ふるさと砂川を誇りに思う心の育成については、9年間を見通した「キャリアパスポート」の作成、これは様式を統一する必要があると考えております。恐らくそれぞれの学校でキャリアパスポートは作られていると思いますし、小学校から中学校、中学校から高校へと引き継がれていくと思いますが、学校ごとに様式が違うと思いますし、学年ごとに分けられている学校もあるかもしれません。参考として他市の学校では統一した様式のものを使っていたので、砂川でも統一できるものはした方が良く考えます。また、コミュニティスクールや社会教育と連携した地域学校共同活動について取り組みを進めております。

最後の6点目は、防災教育や安全教育の充実については令和8年度から砂川市の学校は一校になってしまいますので、市民の方の学校に対する関心だとか愛着もこれからどんどん強くなっていくのではないかなと思います。そういったことから地域の方々と連携した防災訓練、避難訓練なども検討していく必要があるかと思えます。最後に10ページの令和5年度の重点についてですが、今まで各部長から説明があった通りのものを掲載しております。基礎学力の定着と学習習慣の向上では小学校における学習規律・学習スタイルの平準化と家庭学習の習慣の定着を目指す取り組みを進めて参ります。GIGA スクール構想の推進では指導を充実させるため

の効果的なアプリ、無料が良いのか有料が良いのか含めて各学校によって使い勝手が良いもので生徒の指導に生かしている学校もあるとは思いますが、無料のアプリだったり有料のアプリだったり、まちまちになっていると思いますので、小中一貫教育推進委員会の中でどのようなアプリが良いのか吟味しながらすべての学校で取り組みやすいアプリを使って学習していきたいと思います。

続いて不登校等の生徒指導上の諸課題の減少と未然防止については特に小学校から中学校に上がった途端に不登校になる生徒が見受けられ、大体夏休み明けから中1中2あたりが不登校になる生徒がいますので、できるだけ早い段階で小学校6年生の教員と中学校の教員がうまく情報を交換する場も必要だとは思いますが。逆に中学校の先生が小学校の授業を見たり、小学校6年生の先生が中学校の授業を見たりすることも必要になってくると思われ、お互いに意識できるような取り組みや工夫をすることも必要になってくるのではないかと思います。小小連携、小中連携の事業の実施については小学校5校交流会を6年生だけでなく、来年度は5年生でも実施するとしています。さらに遠足についても小学校5校合同遠足の実施についても5、6年生で実施するということになっています。小中連携事業では乗り入れ授業について、今年は6年生だけで行ってきましたが、来年度からは学年ごとに分けて5年生、6年生でも実施することになっています。今年度砂川中学校で開催していただきましたが、入学説明会の時に模擬体験授業で市内5校の授業が3つのグループに分かれて中学校の教員から簡単な授業を受けていただくことも進めております。以上が令和5年度の具体的な取り組みになっています。最終的には教育委員会会議にかけまして、最終決定という形になりますので、時期については申し上げられませんが令和5年度という形で示していますので、推進計画については毎年作っていかねばならないということになります。具体的には資料として説明のある砂川市スタンダードですとか、家庭学習チャレンジ週間の資料などです。これを検証することによって改善点が来年度出てくるとは思いますので、そういった部分的な修正や令和5年度の重点について説明をさせていただきましたので、来年度出される計画は令和5年度の修正点になっていくかと思しますので、前半部分の細かい部分は大きく変わることはないとは思いますが、具体的な取り組みを通して修正等を必要とする個所については順次訂正、修正していくことが必要となりますので、毎年計画が設置されることになると思います。資料の説明については以上となります。

会長

ただいま資料の説明がありましたが、1ページから8ページについてはこれまでも機会があるごとに説明がありましたので割愛したいと思います。年次計画の9ページから10ページに関わってこの中で質問等ありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。ではそのような形で重点を定めながら進めていくということで確認したいと思います。

5. その他

【議事の内容（要旨）】

会長 それでは日程5のその他について事務局お願いします。

事務局 特別部会について小中一貫推進計画の来年度の部分でも説明があった通り、引き続き協議を進めていただきたいと考えております。また、協議の中で新たな部会が出てくる可能性もあるため、今後必要に応じて設置していくということで考えています。令和5年度の状況については記載の状況となっておりますので、引き続き議論いただければと思います。

会長 次年度の特別部会について説明がありましたが、基本的には今年度発足している特別部会を継続し、改善、検証等を進めるということでした。質問、確認事項ございますか。ここについては各学校からの委員を選出してもらい、その中で協議を重ね、取り組みを進めるという形で協力をお願いしたいと思います。

 それでは以上を持ちまして、本日の協議は全て終了とさせていただきますが、皆様方から最後に何かありますか。

 なければこれで閉会とさせていただきます。皆様方のご協議ありがとうございました。今年度の協議はこれで終了とさせていただきますが、来年度についても小中一貫教育推進委員会がありますので、引き続きご協力よろしく申し上げます。今回はありがとうございました。

以 上